

中国

海外事情

Overseas Language and Culture Course

本学の科目「海外事情」は夏期短期海外留学であり、大学公認の単位付き海外語学研修です。実際に海外へ赴き、本学と国際交流協定を結んでいる海外の大学において語学研修を行うとともにその国の文化や歴史などを体験することによってグローバルに活躍する人材を育成します。

中国「南京大学」への留学

世界一話される言語、中国語を学ぶ。

参加学生各自が中国の南京大学における語学研修に参加し、その後の中国各地への研修旅行を通して、実践的な語学力を体得し、かつ現在の中国事情と中国文化に対する理解を一層深めることを目的としています。本学と国際交流協定を結んでいる南京大学で、夏期休暇期間に3週間程度の中国語研修を実施し、その前後5日間程度の研修旅行を行います。切り絵や水墨画などの中国文化体験や太極拳等がカリキュラムに組み込まれている日もあり、1日を通して充実したプログラムが魅力です。また、本留学には、学生各自が異文化理解の能力を向上させると同時に、国際的視野や見識も養成させるねらいがあります。

アジアの時代に生き抜く力を。

現在、中国語は世界で最も多く話されている言語です。中国市場は勢いよく広がりつつあり、中国を知ること学ぶことは、これからの時代を生き抜く中で非常に重要な戦力となります。

開講学部：経営情報学部／情報メディア学部／医療情報学部	
種別：選択	配当年次：1・2・3・4年
単位数：2単位	開催時期：夏期集中
評価：研修（「海外事情（中国編）」・2単位）の評価は、研修先での成績と、受講生が本学担当教員に提出するレポートにより総合的に判断する。	
留学先：南京大学 海外教育学院／中国江蘇省南京市漢口路22号	
電話：0086-25-83593587	FAX：0086-25-83316747
日程：8月上旬～9月上旬（約4週間を予定）	
申込期間：4月下旬より開始	参加人数：20名
参加資格：本学で中国語を履修している全学生および通信教育部の正科生B	
参加費用：約230,000円※ （入学申請費+授業料学費は北海道情報大学が補助）	

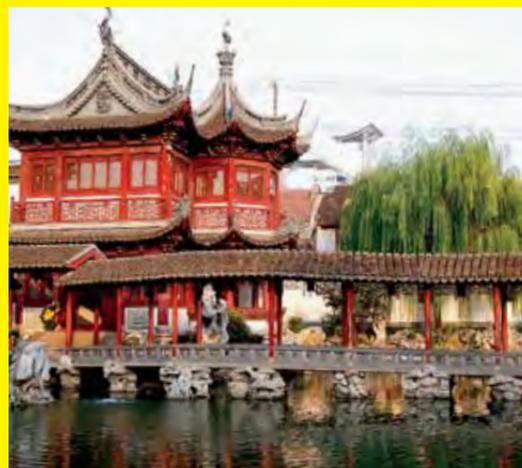
※宿泊費、上海、蘇州観光費、研修旅行費、海外旅行傷害保険料などを含む概算金額です。そのほか、日本国内の交通費および自分の小遣いなどが必要です。※上記はすべて平成24年度の内容となっています。何卒ご了承ください。



国際交流の歩み



- 1999年 8月 第1回の中国短期留学が実現。
- 2002年 夏期短期留学を実現。
- 2004年 第5回、中国夏期短期留学で、参加学生18名。
南京大学側で本学への編入学を目的とした「留学共同プロジェクト」スタート。
- 2005年 南京大学側の教職員や学生が日本文化研修のため来日。
- 2006年 第2期編入学生受け入れ準備のため教職員が訪中。
第2回 日本文化研修開催。
- 2007年 南京大学の施建軍副学長の来学。
第1期編入学生の本学への入学式。
王守仁外語学院長の来学。
- 2009年 第3回 日本文化研修開催。



本学における南京大学との交流は、故松尾三郎前理事長の「情報化と国際化」に向ける情熱によってスタートしました。「情報化が進めば、世界との距離が格段に近くなる」。少しでも早く、次世代を担う若者たちに必要なフィールドを整え、情報のグローバル化に備えるという責務を感じてのことでした。1983年には中国から留学生を招聘し、2年間に渡る情報技術研究を実施。これを機に、南京大学との交流が更に深まり、1994年には松尾三郎前理事長が、

名誉ある南京大学顧問教授の称号と、大学での研究室を頂戴しております。残念なことに、松尾三郎前理事長は1998年に永眠。その遺志を引き継ぎ、翌1999年5月、電子開発学園松尾泰理事長と陳駿南京大学副学長（当時）との、両大学の国際交流協定の調印が執り行われました。そして同年8月、記念すべき第1回中国短期留学が実現しました。この夏期中国短期留学には12名の学生が参加、翌2000年には10名、2002年には13名と続き、2004年には

18名という多数の参加が実現し、海外留学、また中国に対する本学生の関心度の高さを伺い知ることができました。参加した学生によるレポートには、「歴史ある文化と大きく成長する新しい中国に触れたことへの充実感、外国語を学ぶことの難しさと意義」に対する感動の言葉が綴られています。11回目となる2011年度は19名、12回目となる2012年度は9名の学生が参加し、これからの未来に向けた新たなステージが展開することでしょう。



CHINA

広い国土に世界一の人口を抱える大国。

13億を超える世界最大の人口を擁し、国土もロシアとカナダに次ぐ世界第3位の面積を誇る中国。人口の94%を占める漢族のほか、チワン族、ウイグル族、モンゴル族など55の少数民族からなる多民族国家である。また、朝鮮民主主義人民共和国、ロシア、モンゴル、カザフスタン、インド、ネパール、ベトナムなど、もっとも多くの国と国境が隣接している国でもある。



南京市ってどんな街？

南京市は、中華人民共和国の副省級市で、古くから長江流域・華南の中心地として10の王朝が都を置いてきた歴史ある都市です。また、2500年の歴史を誇る南京市は古代から現代までの様々な歴史遺産があり、中国国内でも観光地としても有名で、全国優秀観光都市にも選ばれています。「緑の都」としても知られており、緑化率は街全体の40%以上を占め、旧市街を取り囲んだ南京城壁は世界最大として知られており、山、水、城、森が一体化した景観が美しいだけでなく、教育の面でも優れた都市で、1907年創立の南京図書館や、全国第2位の収蔵を誇る南京博物院など文化事業も充実した都市です。



南京大学の 特長

南京大学の創立は1902年。中国でもっとも歴史ある大学のひとつとして知られる、中国国家教育委員会直属の重点総合大学に指定されています。近年においては北京にある

精華大、北京大と並ぶ全国上位の大学として認められ、さらなる大学設備の充実や教育機関としての向上を図っています。長江下流の街、中国四大古都の一つ南京に位置し、中国で最初に外国人留学生を受け入れた大学の一つでもあり、今までには世界70以上の国や地域からの留学生が南京大学で学んでいます。その総数は1万人以上に及び、特に韓国・日本・ドイツからの留学生が多くを占めています。留学生の受け



入れ体制が整っており、中国語初心者には経験豊富な教師が語学教育にあたるなど、留学生に対する体制はますます充実しています。学習環境も良好で、風光明媚、気候が穏やかで過ごしやすく、環境が整い交通も便利です。設立されて以来、広く国際交流を行っており、世界中の多くの一流大学や研究機構との間に協力関係を築いています。本学における南京大学との交流は、現在に至るまでの関係者の皆さんによる多くの努力と、信頼の積み重ねがあって発展してきました。これからも学生のみならず、異文化に触れて新たな可能性を伸ばして欲しいという願いのもと、中国短期留学はさらなる充実を目指して進み続けていきます。

南京大学担当者からのメッセージ



汪平先生
南京大学
外国語学院 副院長

日本には遠い親戚より近くの他人という諺があります。中国と日本はただの近くの他人だけではなく、近くの他人よりもっといい隣国だと思います。どんなことがあっても、中国と日本は、良い隣国にならないのであれば、相互理解は良い隣国になる道への唯一の方法でしかありません。交流はまた理解への道です。また、言葉の勉強は交流の始まりです。言葉の勉強によって我々の人生を豊かにしましょう。



陈华先生
南京大学
外国語学院 弁公室主任

中国には「民以食为天」という諺がある。いわゆる「民は食を以て天と為す」という意味である。この諺から中国人には食事がどれだけ大切なことかを垣間見ることができるだろう。ことばを覚えるにはその国の文化を体験するのが一番である。なので中国語の勉強も本場の中華料理のツアーからスタートしましょう。

上海 ▶ 蘇州

悠久の歴史に触れる!

近代化が進む上海と、歴史的建造物と近代的なビルが溶け合う蘇州を見学。

8/10 2日目

外灘
上海の中心であり、官庁や銀行が多くおしゃれな街並み。夜景がきれい!

豫園
中国庭園文化の粋を集めた上海きっての名園。

上海博物館
約4万平方メートルの床面積を誇る巨大博物館。

蘇州観光
「東洋のベニス」と呼ばれる蘇州。街中を通る運河が印象的なロマンティックな街並みです。

虎丘
標高30メートルあまりの小高い丘に、雲岩寺塔や剣池などの歴史旧跡があり見所が多い。

寒山寺
有名な鐘のひびきは日本製だといわれています。

8/9 1日目
上海浦東国際空港到着!
名古屋中部国際空港を経由してよいよ上海!

8/11 3日目
蘇州観光
黄色の鮮やかな土塀が印象的な仏教寺院。

8/7 3日目
蘇州観光
「東洋のベニス」と呼ばれる蘇州。街中を通る運河が印象的なロマンティックな街並みです。

南京 ▶ 北京

歴史に想いを馳せる!

歴史的な遺産や建築物がひしめく、中国の首都をじっくり見学。

9/1 移動日

9/2 1日目
北京観光
首都北京で、南京で習った中国語研修を活かそう!

9/3 2日目
天安門広場
中国のシンボリックな存在。50万人を収容できる。

9/4 3日目
北京動物園
中国でも最大規模を誇る動物園。

9/5 帰国日
帰国後、レポートを提出して修了

9/7 移動日
南京から北京へ列車で移動
すごい熱気と外国語のアナウンスに圧倒されました!

9/3 2日目
紫禁城
中国最後の皇帝の居城・紫禁城がそのまま博物館として公開されている。

9/4 3日目
頤和園
中国でも最大規模を誇る動物園。

9/5 帰国日
帰国後、レポートを提出して修了

9/2 1日目
八達嶺
世界遺産「万里の長城」の一部で観光可能な一般公開されている場所。

9/3 2日目
天壇公園
北京観光
首都北京で、南京で習った中国語研修を活かそう!

9/4 3日目
頤和園
中国でも最大規模を誇る動物園。

9/5 帰国日
帰国後、レポートを提出して修了

中国語研修

いよいよ研修本番!

8/12 ▶ 8/31

※日程は2012年度のものです。

南京大学で中国語を学びながら、買い物や食事を通して中国の人たちとコミュニケーションを実践。

1日のスケジュール

8:00 起床・朝食

12:00 語学または総合 授業 昼食・昼休み

14:00 自由時間または中国文化体験

17:00 夕食・就寝

先生と一緒に観光することもあります。

語学・総合授業

少人数制なのでしっかり勉強できます!

中国文化体験

放課後には中国の文化を体験できます。ぜひチャレンジしてください!

自由時間

放課後はみんなで南京市内へ!ショッピングや食事なども楽しんで♪



留学 AFTER

心を通わせ、 楽しさがひろがりました。

反日感情が強いといわれる南京への留学だったので、現地へ行く前には少なからず不安がありました。でも、実際にはそんなことはなく、ほとんどの人たちが中国語の話せない僕にも親切に接してくださいました。言葉がわからなくても、「伝えよう!」とか「やってみよう!」という気持ちがあれば、心は通いあうものです。縮こまらずにチャレンジすることで、いろんな楽しさがひろがりました。

ちょっとした 冒険で、貴重な発見。

一人でバスに乗って観光に出かけてみるのもチャレンジのひとつです。一緒に留学した友だちや現地の学生と学んだり遊んだりする以外に、異国の地を一人でめぐって、そこで暮らす人々と直接ふれあいたいと思いました。このちょっとした冒険を通して、学生同士の交流だけでは知ることのできない貴重な発見ができました。

中国 おもいで逸品

北京動物園で購入した、
見ただけでとても癒される
「ペン立て」です。
今でもとってもお気に入り
ず〜と使っています!



毎日が「百聞は一見にしかず」。

同じ漢字を使っているのに、会話はあまりうまくいきませんでした。話すにしても聞き取るにしても発音が難しく、勉強していった成果はほとんど出せずじまい。それでも、日本と異なるところの多い中国社会をたっぷり体験して、毎日が「百聞は一見にしかず」だらけの濃密な時間を過ごすことができました。

構えすぎず、 気軽に参加してください!

もっといろんな場所に足を運んだり、もっとたくさんの現地の方々
と会話をすればよかったと反省しています。日本以外からも多くの
留学生が来ていたので、そうした学生たちとの交流にも積極的に
取り組むべきでした。留学は、抱えきれないほどの経験と出会い
が待っています。あまり構えず、気軽に参加してください!

中国 おもいで逸品

美しい中国の刺繍。
まるで写真のような
きめ細やかさで、
本当にきれいです。



まだまだチャレンジしていきます!

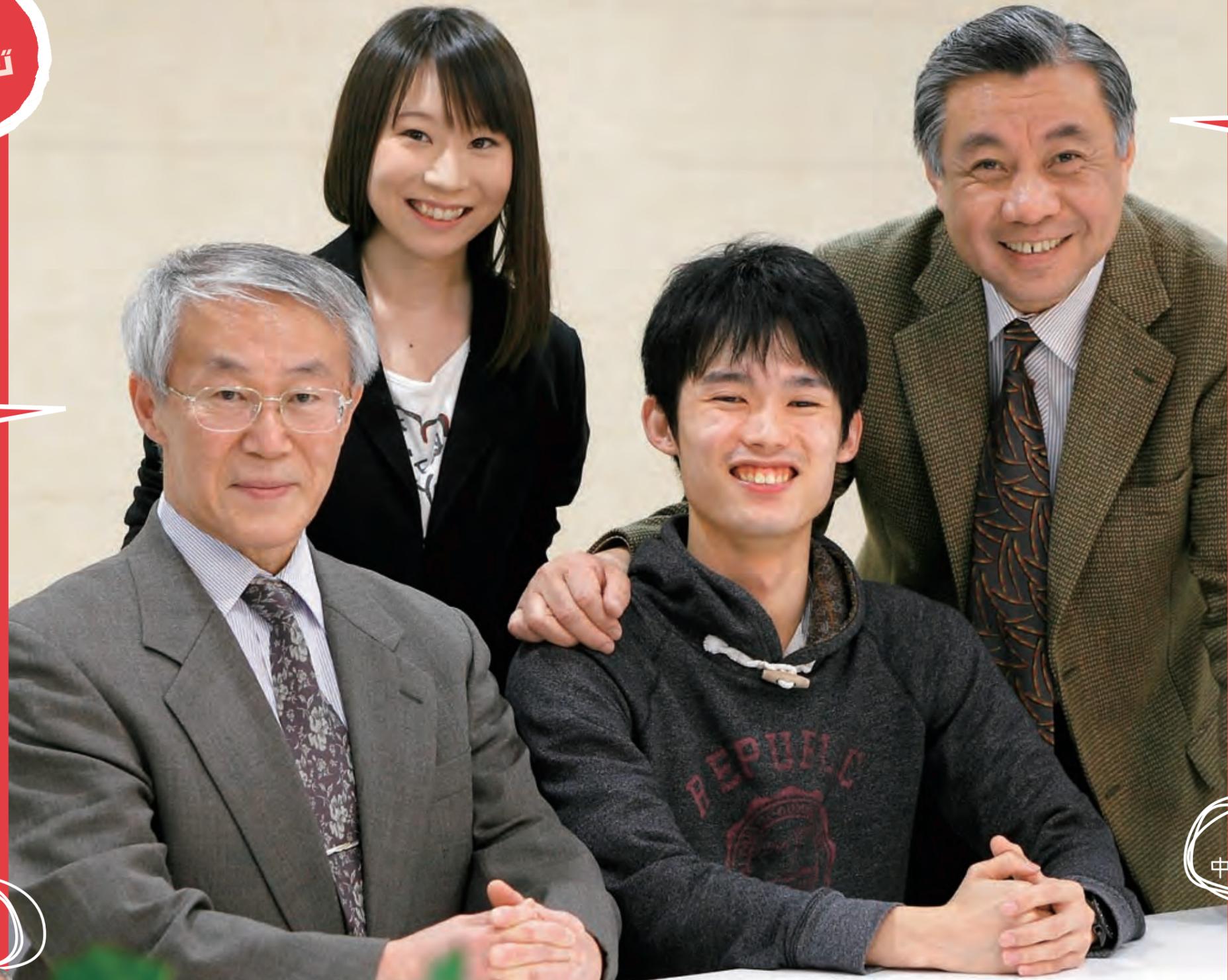
日本とはちがう文化や習慣のなかに飛び込むと、毎日が未知の体験の連続です。それは、なにものにも代えられない大きな財産になると実感しています。思い切って国境をこえて、いましかできないことに挑戦しましょう。僕もまだまだチャレンジしていきます!

テレビや新聞では 伝わらない、 ほんとうの印象。

中国の人たちは、ふだんのお互いの距離のとり方が私たち日本人よりも近い、というふうに感じました。それは、人の目を気にする尺度だったり、分け隔てのない人なつこさだったり。なれない私たちには、ときとして気障りに思える場合もありますが、余計なことにとられない自由さや開放感は、こんなところからきているのかもしれない。テレビや新聞などから伝わる中国のイメージとは、ちょっとちがう印象でした。



中国引率教育のメッセージ
TEACHERS' MESSAGE



私が学生に中国留学を強く薦める理由は、二つある。一つは、大学の授業で習得した中国語は、何と現地ではまったく役に立たず、やっと言語を学ぶ大変さを自ら体得できる。もう一つは、現地での生活から、中国の文化と習慣が日本とはかなり異なり、かつ中国人の物の考え方も、日本人とは全然違うことが理解できる。要するに、外国に出て、自分の言葉の実力を悟り、また異文化に触れて、初めて日本の文化や習慣などを再認識するのである。このように留学体験は、間違いなく各自の人生や価値観を変える素晴らしいものになるので、学生諸君は積極的に勇気を持って、中国留学に果敢に挑戦して欲しい。



経営情報学部/システム情報学科
教授 玉置 重俊

1972年の日中国交正常化以降、長年のキーワードは「友好」でしたが、近年は歴史認識など個々の問題があっても、日中に共通する利益(経済分野が主)を目指して協力を深めようといういわば「実利重視」の関係をよりよい方向へ向かわせるために、若者達の努力も必要です。
最近、中国語を学習する目的は「仕事」を挙げる日本人が多くなり、中国に進出した日本企業も中国語検定試験(HSK)の成績を採用や昇進の参考にするケースが広がっています。中国語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の力、特に中国人との初歩的なコミュニケーション力を高めるために、南京大学での中国語夏期研修、及び現地での生きた語学学習を自信をもって若者達に薦めます。



情報メディア学部/情報メディア学科
教授 田中 英夫

異文化に触れて
日本を知ろう!

日本から飛行機で
約8時間で歴史を感じる
中国へ!

留学してみて
中国の良さが分った

しっかり
サポートしますよ!



南京大学との国際交流。

留学共同プロジェクト

南京大学外国語学院日本語学部での2年間の課程を終えた学生が本学へ編入できるこのプログラムは、双方の大学で勉強ができるという大きな魅力があり、2006年に1期生を迎えてから毎年多くの編入生が本学に入学し、2014年には8期生を迎える予定です。加えて南京大学からは聴講生なども留学しており、現在では60人を超える在学学生が本学での勉学に励んでいます。南京大学から本学への留学課程の中心には「ITと日本語」という二大要素があり、伸びゆく情報化社会への取り組みと日本語の習得に、中国の

若者から強い関心が寄せられるプロジェクトとして本学の国際化の柱とも言うべき交流として成り立っています。留学生達は、日本での慣れない生活や本学生との交流、言葉の壁に苦労しながらも、だからこそ充実した毎日を送っています。また本学の学生にとっても、中国からの留学生と交流することはかけがえのない経験となっていると考えられ、授業や部活、各種のイベントを通して両国の学生の友情が育まれています。



編入学生キャンパスカレンダー

4月 ●入学式 ●歓迎食事会	5月 ●日帰り研修	6月 ●体育祭 ●企業見学会 ●日本語弁論大会	7月 ●江別市民宅へホームステイ開始	8月	9月 ●聴講生受け入れ ●社会見学
10月 ●蒼天祭 ●日中学生文化交流会	11月 ●宿泊研修	12月 ●餅つき大会	1月	2月	3月 ●卒業式 ●新入学生受け入れ ●社会見学



1999年に本学と国際交流協定が結ばれた南京大学では、2004年に本学との新たな試みである「留学共同プロジェクト」がスタートしました。

